

「第11回 国立阿蘇青少年交流の家所長杯争奪九州地区中学生柔道大会」

「第11回 九州地区中学生柔道阿蘇錬成大会」事業報告書

企画指導専門職 花田 誠

1 事業概要

- (1) 趣 旨 九州地区を中心とする中学生を対象に、心身の鍛錬及び競技力の向上を図るとともに中学生相互の親睦を図る。
- (2) 主 催 国立阿蘇青少年交流の家
- (3) 共 催 熊本県柔道協会
- (4) 後 援 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会 高森町教育委員会 小国町教育委員会
南小国町教育委員会 南阿蘇村教育委員会 産山村教育委員会 西原村教育委員会
- (5) 協 賛 株式会社秀拓 石井化成工業株式会社
- (6) 期 日 平成31年2月23日(土)～24日(日) 1泊2日
- (7) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家 体育館 武道場
- (8) 参加者 36チーム 指導者・選手 351名(男 232名 女 119名)
宿泊者: 271名 日帰り(応援含む) 23日: 68名 24日: 174名
- (9) 大会事務局 米田輝彦(熊本県柔道協会中学校部会代表)
- (10) 担当者 花田誠(企画指導専門職) 山下正晃(企画指導専門職)
内村千春(事業推進係主任) 田上正文(事業推進室事務補佐員)
東 寛児(事業支援室事務補佐員)
- (11) 事業内容 【1日目】 国立阿蘇青少年交流の家所長杯争奪九州地区中学生柔道大会
【2日目】 九州地区中学生柔道阿蘇錬成大会

2 成果と課題

- (1) 成 果
 - 「九州のいろいろな学校の人と試合ができていい経験になった。」「チームで泊まれたことで、チーム力が高まったと思う。」「他校のチームと対戦することで自分たちのレベルが分かった。」等の選手・指導者からの感想があった。試合を通して他チームとの親睦を深めたり、技術を高めたりするうえで良い機会となった。
 - 2日目の弁当の受け渡しや回収時に、職員が立ち会い指導を行うことで、各チームでマナーの向上が見られた。職員が立ち会うことで、選手や保護者も前向きに取り組むことができた。中には他のチームへ指導してくれる選手もいた。
 - 熊本県柔道整復師会の整復師の提案により、救護室を体育館倉庫に設置したことで、迅速な対応ができた。また、参加選手が安心して試合に臨むことができた。また、けがへの迅速な対応ができた。
 - 担当者の中に前年度大会の経験者がいたことで、役割分担がスムーズにでき、受付、シーツの配布、食堂やレストランの利用など、各担当が工夫しながら準備や利用者の対応ができた。
- (2) 課 題
 - 1日目、2日目の試合共に、エントリーや組み合わせの変更が複数あり、対応が難しかった。監督会議には間に合っていたが、参観者用の配布資料については、貼り出しの掲示物等で対応してもよい。
 - 当日キャンセルのチームとの連絡をうまく取ることができなかった。交流の家では、宿泊チームの代表者の連絡先は把握できていたが、日帰り参加のチームの連絡先は大会役員しか把握できていなかったからである。各チームへの連絡が取れるように、各大会の申込書においても各チームの代表者の連絡先を明記するようにし、共有できるようにしておく必要がある。

3 活動の様子



開会式の様子



選手宣誓



大会の様子（男子の部）



大会の様子（女子の部）



閉会式の様子



上位入賞チームの表彰